静岡県委託事業

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



令和５年度 事業報告書

ふじのくに女性医師支援センター

目次

1 ご挨拶 …… 1

山内　克哉　　浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科　病院教授
谷口千津子　　浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター　特任講師

2 事業について …… 3

・活動概要　・取り組み　・構成メンバー　・協議会

3 実績報告 …… 5

・成　　果　①就業・復職・キャリア形成支援について
②相談事業について
③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について
④浜松医科大学との連携
⑤県内医療機関との連携
⑥令和５年度静岡県医師数アンケート報告

・活動報告　①啓発活動
②相談窓口の設置
③センターの活用
④マタニティ白衣・マタニティパンツの無料貸出し

4 広報活動・情報発信 …… 28

① ホームページ・SNS での周知について
② パンフレットの配布
③ 周知カードの配布
④ 講演会・シンポジウム等の参加
⑤ メディア掲載

5 アクセス・発行について …… 34

ご挨拶

センター長挨拶



山内 克哉
浜松医科大学医学部附属病院
リハビリテーション科　病院教授

女性医師にとっての共通の悩みは、結婚や出産・育児と仕事の両立です。子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取り組みを積極的に実施することで、女性医師が更に活躍する仕組みを構築しています。出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

静岡県の医師不足は深刻であり、女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあります。浜松医科大学では、平成 21 年～ 25 年にかけて「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として行い、平成 25 年から 27 年まで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として行われた後に、浜松医大医師トータルサポートセンター（旧：浜松医大女性医師支援センター）が、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後等の女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標で、年々女性医師の復帰率も向上しています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内のどういう病院がどういう条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態や給与などの情報を集積するために、センターでは谷口医師を中心に県内病院を訪問し、大きな成果を挙げています。コロナの収束とともに、本年度は東部地区を中心に病院訪問も再開しました。病院訪問時には積極的な情報交換を行いたいと思いますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

ふじのくに女性医師支援センターへの相談件数は年々増加し、県外からの就業相談も増えてきました。相談内容は、病院の勤務形態や専門医の取得、知識・手技の取得や研究の継続といった仕事面の事や、育児面（子供の預け先、病児保育、マタニティ白衣、母乳育児の継続、子供の教育相談など）と多岐に渡る相談があります。同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところです。対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなセンターを理想と想い描いています。今後は復職だけでなく、キャリア形成支援や女性管理職の増加、アカデミアポジションへのトライなどの支援も検討しています。皆様からの要望もお待ちしていますので、是非お気軽にご利用下さい。

専任医師挨拶



谷口 千津子
浜松医科大学医学部附属病院
医師トータルサポートセンター　特任講師

仕事と家庭の両立を考えるワークライフバランスから多様な働き方を受け入れるダイバーシティ・インクルージョン。女性医師の働き方を考える取り組みの中で様々な言葉が取り入れられてきています。そのような議論が社会的に広がる中、育児や家庭生活の主体が女性であるという考え方は女性医師として働く私たちの意識の中にもありますし、それに伴いキャリアから離れてもしかたないと考える方も少なくありません。

男女が平等に家庭と仕事の両立ができ、キャリアを形成できる環境作りには、これから子育てや家庭生活との両立を目指す若い医師と共に、指導に当たる医師たちの意識の変革が必要となっている事を感じる一年となりました。子育てに積極的に参加する男性医師の中には女性医師と同様に家庭と仕事の両立について悩まれる方もおり、一方でそれを支援する上司、管理者の先生方も増えてきました。私たちの活動も女性だけにとどまらず男性医師の育児参加や家庭との両立を支援する必要性を感じています。「ふじのくに女性医師支援センター」は従来の女性医師が家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてもキャリアを形成し、地域で活躍できるよう県内医療機関と連携して支援する事、また県外から静岡県での就業を希望する医師への情報提供を行い、静岡県の医師不足を解消するための一つの役割を担う事を目的としていますが、これからはさらに活動の幅を広げ男性医師の支援、女性医師も地域の指導者・管理者を目指せるような取り組みへと広げていきたいと考えています。

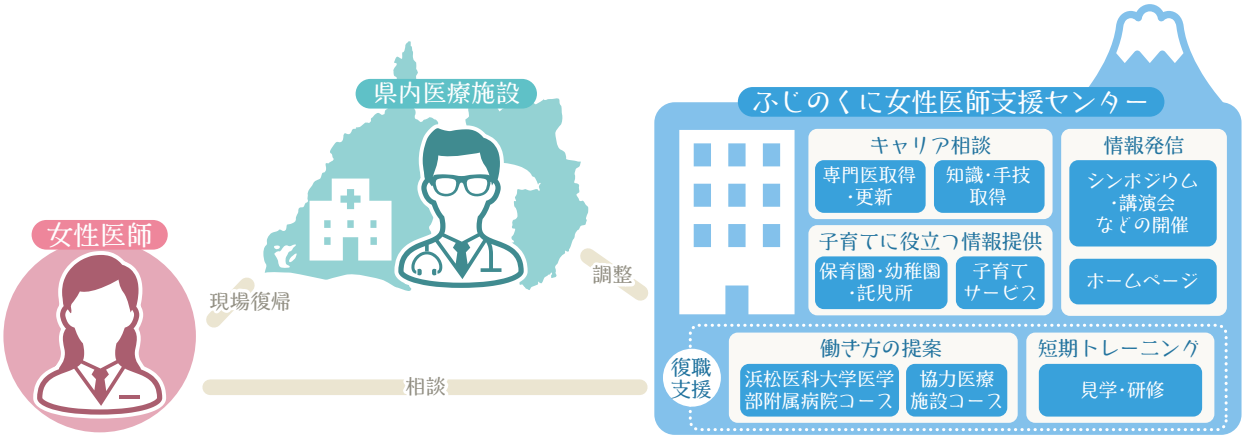
「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の公的医療機関や浜松医科大学の各診療講座の先生方のご協力をいただいて８年目の活動となりました。全国に広がる医師支援の活動を吸収し、静岡県の医師の皆さんにより良い支援が行えるよう更なる目標を定め努力していきたいと思っております。

医師のキャリアを積んでいく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも繋がっています。静岡県内の医師の皆さんに活用されることによりこの「ふじのくに女性医師支援センター」の活動も発展していくものと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援・就業支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職・就業ができるようサポートします。

浜松医科大学女性医師支援枠（参照 11P）

復職支援協力医療施設（参照 13P）

③啓発活動（参照 22 ～ 25P）

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）

②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区　　分	内　　容
開 設 日	平成 29 年４月３日（月）
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院（病院棟５階　503 号室）
組織体制	センター長 山内 克哉（浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科病院教授） コーディネーター（専任医師） 谷口 千津子（浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター特任講師） コーディネーター（専従事務員） 袴田 菜穂子（浜松医科大学医学部附属病院女性医師トータルサポートセンター）
時　間	午前９時から午後５時まで

協議会

女性医師支援連絡協議会

区　　分	内　　容
目　　的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会長　奈良　雅文　静岡県健康福祉部参事 委員　中川　陽子　静岡県立静岡がんセンター 検診センター　医長 委員　鳥居　紘子　静岡県立総合病院 移行医療部 耳鼻咽喉科　医長 委員　佐藤　　洋　静岡県医師会　理事 委員　金本　素子　静岡県病院協会 委員　山内　克哉　浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター　センター長 委員　谷口千津子　浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター　特任講師

実績報告

1）成果（R6.3.10 現在）

①支援業務：就業・復職支援、キャリア形成支援

県内医療施設での就業や出産・育児を経て医療現場への復帰を希望する医師への支援を行います。

（ア）就業支援

県内外在住の医師が静岡県内での就職先を求めた際に、県内医療機関への就業に伴う支援を行います。

区分	人数
就業相談	26 名
就業支援（上記相談支援の内）	8 名（今年度 2 名、来年度 6 名）

（イ）復職支援

県内医療機関に就業中の女性医師が産休・育休後復帰、あるいは休職中の女性医師が医療現場に復帰をする際の支援を行います。

また、就業支援対象者に対し、浜松医科大学各診療科講座と連携し、講座非常勤医師、あるいは「浜松医科大学女性医師支援枠」において復職する際に個別の復職プログラムを作成・運用します。

区分	人数
復職相談	18 名
復職支援（上記相談支援の内）	19 名（今年度 9 名、来年度 10 名）

大学復職支援者一覧（平成２９年～）

診療科	人数
内科	2 名
産婦人科	8 名
皮膚科	2 名
精神科	2 名
形成外科	1 名
小児外科	1 名
合計	16 名

（ウ）キャリア形成支援

県内在住の女性医師のキャリア形成に関して、支援を行います。

大学各診療講座と連携し対応し、相談者である女性医師の希望に合わせて専門医資格・更新に関する情報提供や研修医療施設の情報提供及び紹介を行います。

区分	人数
キャリア形成相談	17 名

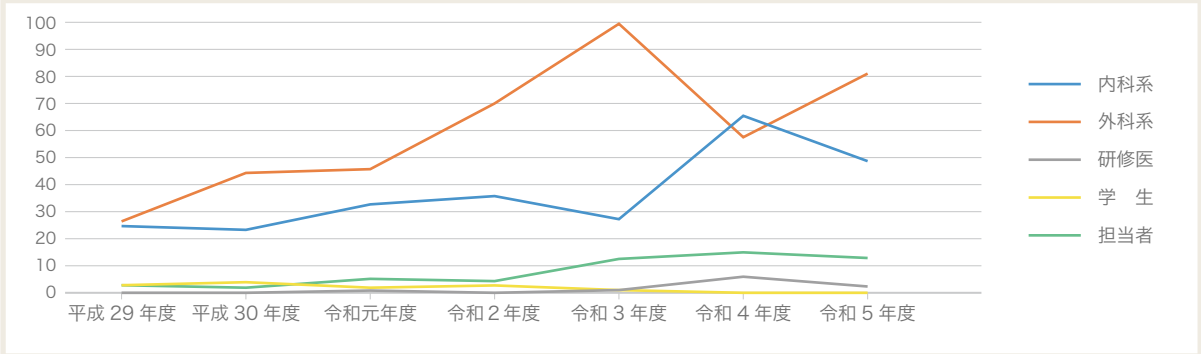
②相談事業について（項目件数）

区分	実績件数
就業相談	188 件
キャリア形成相談	135 件
その他相談	73 件

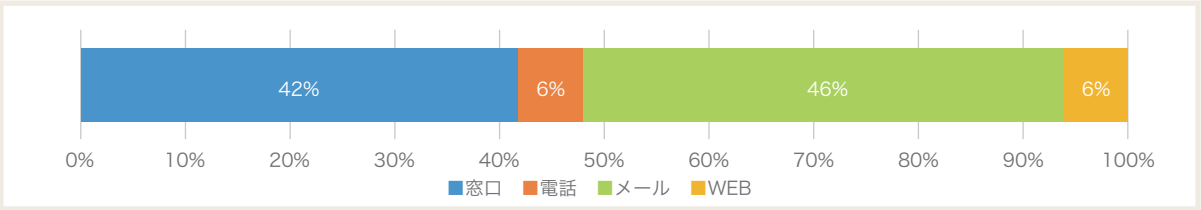
相談者数内訳：**相談者数　49 名**（医師 40 名、担当者等 9 名）、**相談回数 145 回**

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後 5 年未満	卒後 5 年～ 10 年未満	卒後 10 年～ 15 年未満	卒後 15 年以上		
医師	内科		4	2	2		
	精神科	1					
	小児科		2	1	1		
	外科		1	1			
	整形外科						
	皮膚科		1	1			
	眼科				1		
	耳鼻咽喉科	1	1				
	産婦人科		1	3	9		
	放射線科				1		
	麻酔科蘇生科			1			
	形成外科				1		
	小児外科						
	リハビリテーション科		1	2			
	病理診断科						
	救急科						
	研修医	1					
学生							
担当者等							9
合計　49 名		3	11	11	15	0	9

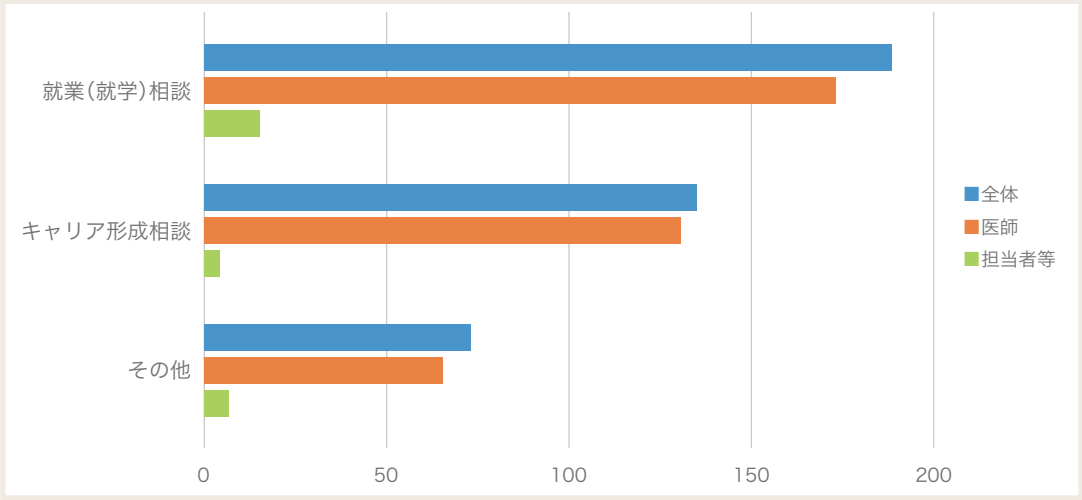
相談件数の推移



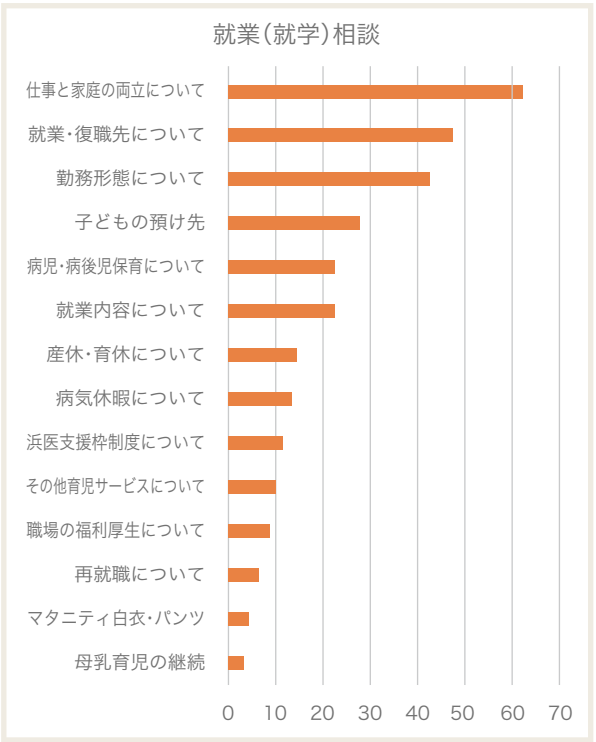
相談方法

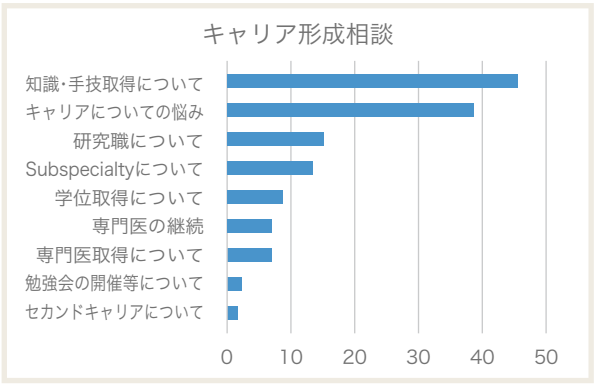


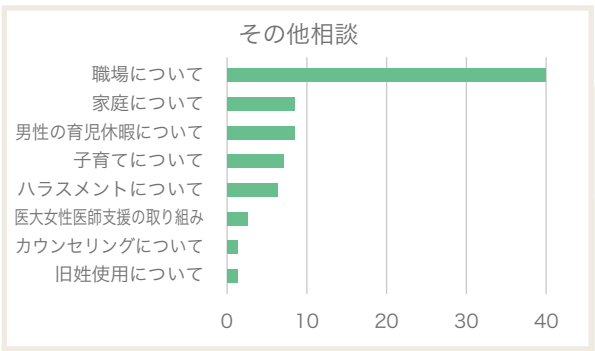
相談項目別（※１回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



相談内容内訳（※１回の相談において複数の項目が該当する場合あり）







令和５年度は特に５年目から 15 年目の先生からのご相談が全体の８割近くを占めており、子育て世代の先生を中心に相談に来ていただいた一方で、上司からのご相談も増加し女性医師の両立支援の動きが各診療科で広がっている傾向を感じました。

相談内容についても、例年通り復職に関する子育て支援情報・両立のための勤務形態や就業内容に関する相談が多くを占め、また自身のキャリアや医師としての知識、技術の習得に関しての相談も増加しました。子育てとキャリアの間で仕事を再検討せざるを得ない方もあり、一人ひとりの環境・考え方に沿った支援が必要と改めて考えさせられました。

③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	医療機関
訪問数	15 診療科	11 施設

【浜松医科大学訪問診療科一覧】

腎臓内科	呼吸器内科	免疫・リウマチ内科
放射線科	乳腺外科	第二外科
眼科	精神科	皮膚科
小児科	耳鼻咽喉科	産婦人科
リハビリテーション科	形成外科	病理部

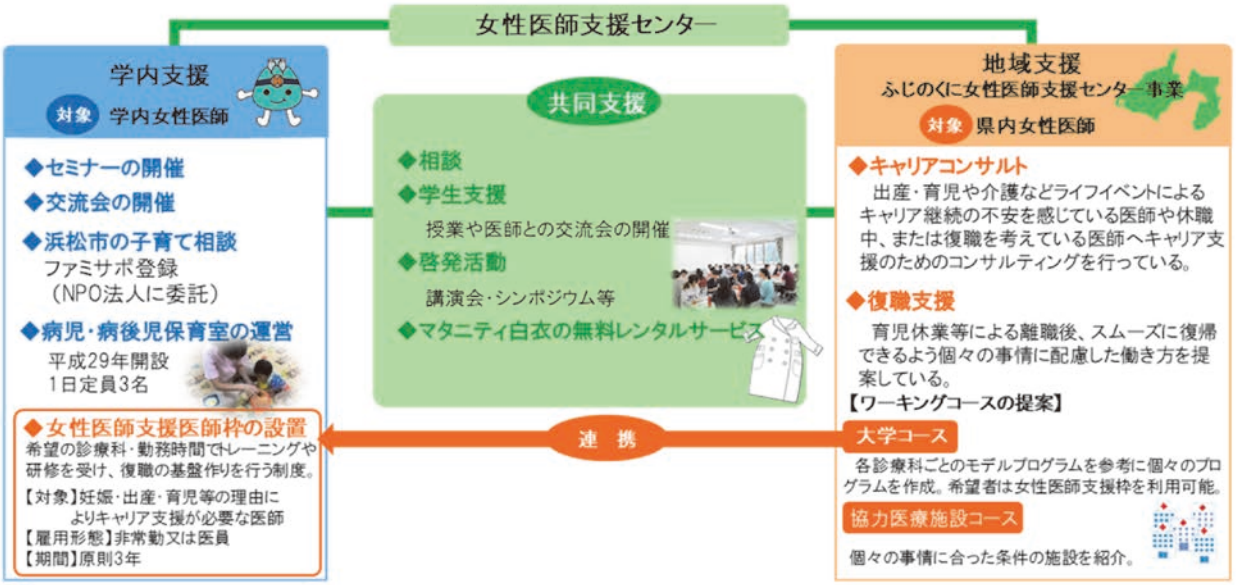
【県内訪問医療機関一覧】

下田メディカルセンター	磐田市立総合病院
伊豆今井浜病院	菊川市立総合病院
西伊豆健育会病院	浜松ろうさい病院
富士宮市立病院	浜松医療センター
静岡済生会総合病院	市立湖西病院
JCHO 桜ヶ丘病院	浜松赤十字病院

④浜松医科大学との連携

1）大学との連携、組織図

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県の委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では大学医師トータルサポートセンターが主体となり、学内医師を対象に病児・病後児保育室の運営やイベントを行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



2）診療科訪問・復職トレーニングモデルプログラムの作成依頼

15 診療科を訪問し、事業の報告と各講座の状況を確認しました。

現在、49 プログラムが浜松医科大学医師トータルサポートセンターホームページより閲覧可能です。

※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学医師トータルサポートセンターホームページ
https://www.hama-med.ac.jp/hos/cent-clin-fac/tods/index.html

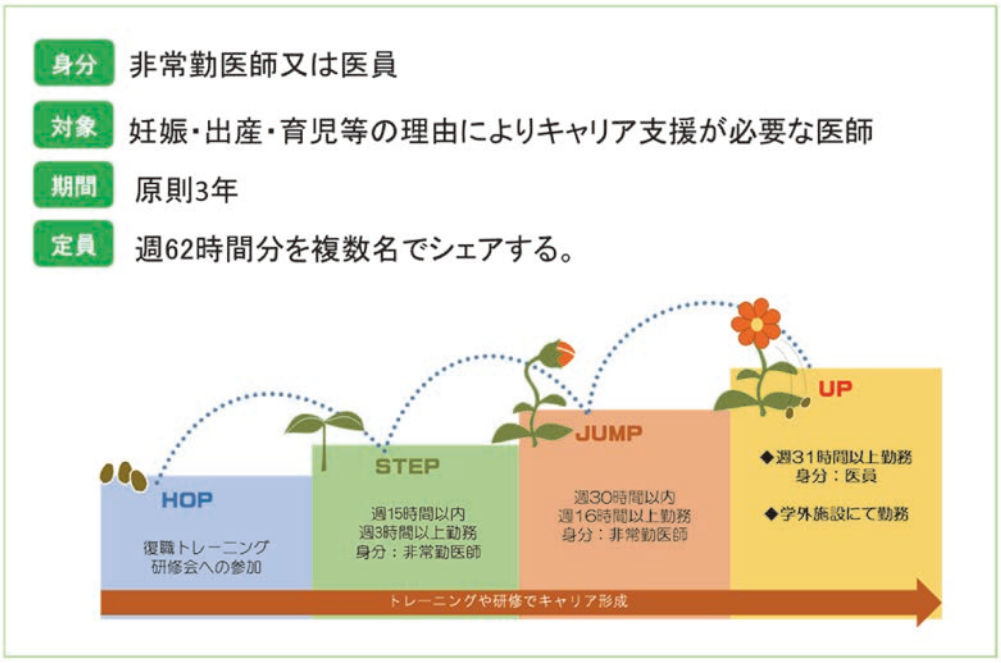


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	リハビリテーション科	1
第二内科	6	皮膚科	1	形成外科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	病理診断科	−
精神科	3	眼科	1	救急科	1
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	小児外科	−
第一外科	5	産婦人科	3	口腔外科	−
第二外科	−	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	麻酔科	1	プログラム合計	49

3）浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師の離職を避けるために、浜松医科大学医師トータルサポートセンターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の３ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

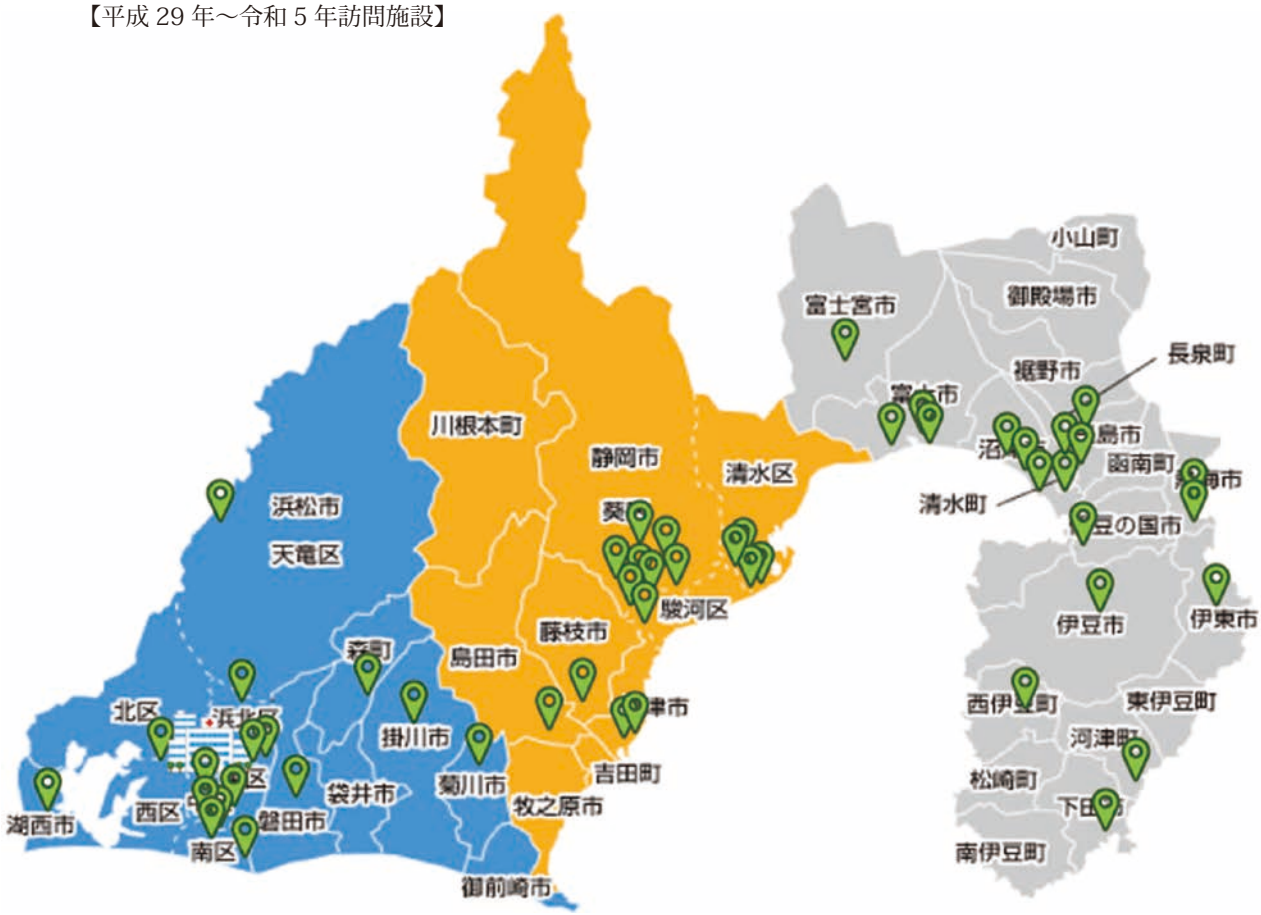
⑤県内医療機関との連携

1）訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は９施設を訪問し、その他医療施設を２施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

①事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
②院内の女性医師数等の情報提供
③院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
④担当者がいない施設については配置依頼

【平成 29 年～令和 5 年訪問施設】



2）復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録していること。また、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設であること。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

【ホームページ登録施設一覧】

■公的医療機関等

施　　設　　名
下田メディカルセンター
伊東市民病院
国立病院機構静岡医療センター
裾野赤十字病院
伊豆赤十字病院
三島総合病院
NTT 東日本伊豆病院
富士宮市立病院
富士市立中央病院
静岡県立こころの医療センター
静岡県立こども病院
静岡市立清水病院
静岡赤十字病院
静岡済生会総合病院
JA 静岡厚生連静岡厚生病院
JA 静岡厚生連清水厚生病院
島田市立総合医療センター
藤枝市立総合病院
磐田市立総合病院
中東遠総合医療センター
菊川市立総合病院
浜松ろうさい病院
国立病院機構天竜病院
浜松医療センター
市立湖西病院
浜松赤十字病院
JA 静岡厚生連遠州病院
総合病院聖隷浜松病院
総合病院聖隷三方原病院

■その他医療施設

施　　設　　名
聖隷沼津病院
三島共立病院
三島森田病院
池田病院
富士整形外科病院
医療法人清仁会日本平病院
医療法人社団正心会岡本石井病院
静岡徳洲会病院
国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
駿河西病院
掛川北病院
掛川東病院・介護老人保健施設　桔梗の丘
十全記念病院
浜北さくら台病院
すずかけセントラル病院
平安の森記念病院
浜名病院
浜松南病院

■診療所

施　　設　　名
木村産科・婦人科
坂の上ファミリークリニック
浜松佐藤町診療所
やまなしクリニック
クリニックさくら
森本耳鼻咽喉科

【復職支援協力医療施設一覧】（R6.2.1 現在）

◆東部 25 施設

区分	施　設　名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	下田メディカルセンター	○	○	○
公	西伊豆健育会病院	－	○	－
公	伊豆今井浜病院	○	－	－
公	伊東市民病院	○	○	○
公	国際医療福祉大学熱海病院	○	○	－
公	国立病院機構静岡医療センター	○	○	○
公	静岡県立静岡がんセンター	○	○	－
公	沼津市立病院	○	○	－
公	裾野赤十字病院	○	○	○
公	伊豆赤十字病院	○	○	○
公	伊豆医療福祉センター	－	○	－
公	三島総合病院	－	○	○
公	沼津中央病院	○	○	－

区分	施　設　名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	NTT 東日本伊豆病院	－	○	○
公	順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	－
公	富士宮市立病院	○	○	○
公	共立蒲原病院	○	○	－
公	富士市立中央病院	○	○	○
公	鷹岡病院	－	○	－
病	熱海所記念病院	○	○	－
病	聖隷沼津病院	○	○	○
病	三島共立病院	－	○	○
病	池田病院	－	○	○
病	富士整形外科病院	○	○	－
病	三島森田病院	○	○	○

◆中部 21 施設

区分	施　設　名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	静岡県立こころの医療センター	○	○	○
公	静岡県立こども病院	○	○	○
公	静岡県立総合病院	○	○	－
公	静岡市立静岡病院	○	○	－
公	静岡市立清水病院	○	○	○
公	静岡赤十字病院	○	○	○
公	静岡済生会総合病院	○	○	○
公	JA静岡厚生連静岡厚生病院	○	○	○
公	JA静岡厚生連清水厚生病院	○	○	○
公	清水駿府病院	○	○	－
公	島田市立総合医療センター	－	○	○

区分	施　設　名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	焼津市立総合病院	－	○	－
公	藤枝市立総合病院	○	○	○
病	日本平病院	－	○	○
病	岡本石井病院	－	○	○
病	静岡徳洲会病院	－	○	○
病	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	○	－	○
病	甲賀病院	○	○	○
病	駿河西病院	－	○	○
病	JCHO 桜ヶ丘病院	○	○	－
他	静岡県結核予防会	－	○	○

◆西部 29 施設

区分	施　設　名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	磐田市立総合病院	○	○	○
公	中東遠総合医療センター	○	○	○
公	聖隷袋井市民病院	－	○	－
公	市立御前崎総合病院	－	○	－
公	菊川市立総合病院	○	○	○
公	公立森町病院	－	○	－
公	浜松ろうさい病院	○	○	○
公	国立病院機構天竜病院	○	－	○
公	浜松医療センター	○	○	○
公	国民健康保険佐久間病院	○	○	－
公	市立湖西病院	－	○	○
公	浜松赤十字病院	○	○	○
公	JA 静岡厚生連遠州病院	○	○	○
公	総合病院聖隷浜松病院	○	○	○
公	総合病院聖隷三方原病院	○	○	○
病	掛川北病院	－	○	○
病	掛川東病院・介護老人保健施設　桔梗の丘	－	○	○
病	浜名病院	－	○	○
病	浜松南病院	－	○	○
病	十全記念病院	－	○	○
病	浜北さくら台病院	－	○	○
病	すずかけセントラル病院	－	○	○
病	平安の森記念病院	－	○	○
診	木村産科・婦人科	○	－	○
診	坂の上ファミリークリニック	－	○	○
診	浜松佐藤町診療所	○	○	○
診	やまなしクリニック	○	－	○
診	クリニックさくら	○	－	○
診	森本耳鼻咽喉科	○	－	○

区分　公：公的医療機関等　病：その他の医療施設　診：診療所

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページ TOP →復職支援情報→復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

URL: https://www.fujinokuni-w.jp/

⑥令和５年度静岡県医師数アンケート

◆目　　的　　静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することにより、県内女性医師支援活動の現状把握と今後の活動の方向性を検討する

◆調査期間　　令和５年 10 月～ 12 月

◆対　　象　　静岡県内医療機関（病院）

◆回答施設数　68 施設（回答率 45.6%）

Q1-1　２０２２年４月１日時点での女性医師在籍数

区分	全体	女性医師
常勤医師	3061	612
非常勤医師	1539	175

Q1-2　２０２１年４月～２０２２年３月までの期間に県外から就業した女性医師数　＊研修医は含まない

全体	東部	中部	西部
113	66	32	15

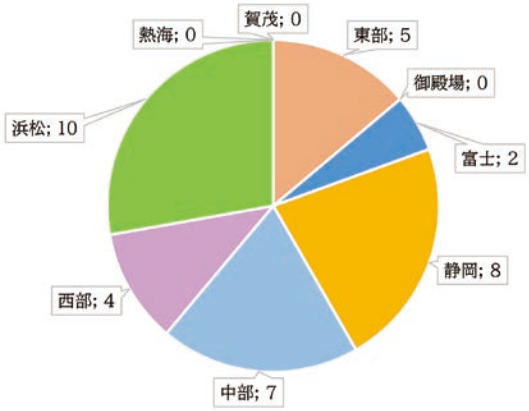
Q2　管理職に就いている女性医師数　（人）

	管理者	副院長	診療部長	診療科長
全体	5	3	19	70
急性期病院	0	2	7	63

女性医師で指導者となる科長は急性期病院で１施設に複数いる施設もありますが、管理部門になるに従い女性医師の数が少ないことがわかります。

Q3　２０２２年４月～２０２３年３月までの期間に産休、育休を取得した医師数、また復帰した医師数

◆産前産後休暇取得者数　　36 名 (常勤女性医師の 5.8%)



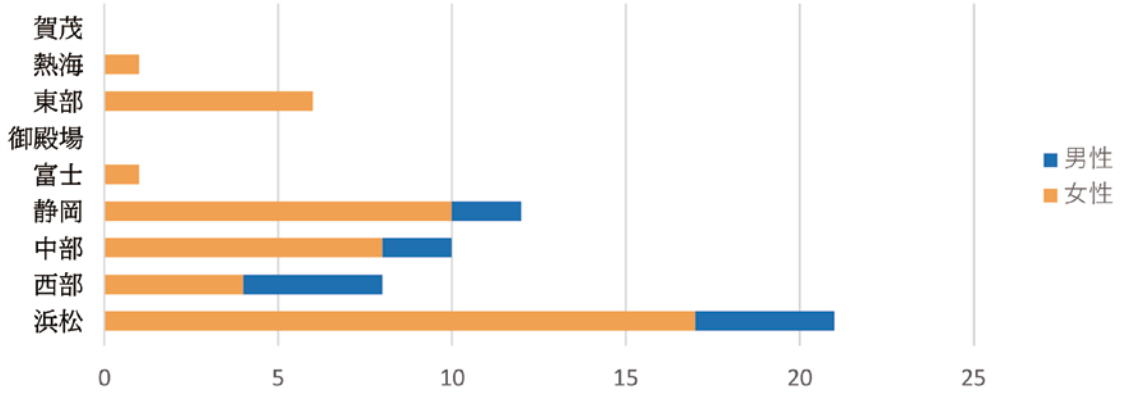
◆育児休暇取得者数

【男性医師】

17 人（昨年度男性取得者は 12 名）

【女性医師】

47 人（昨年度女性取得者は 52 名）



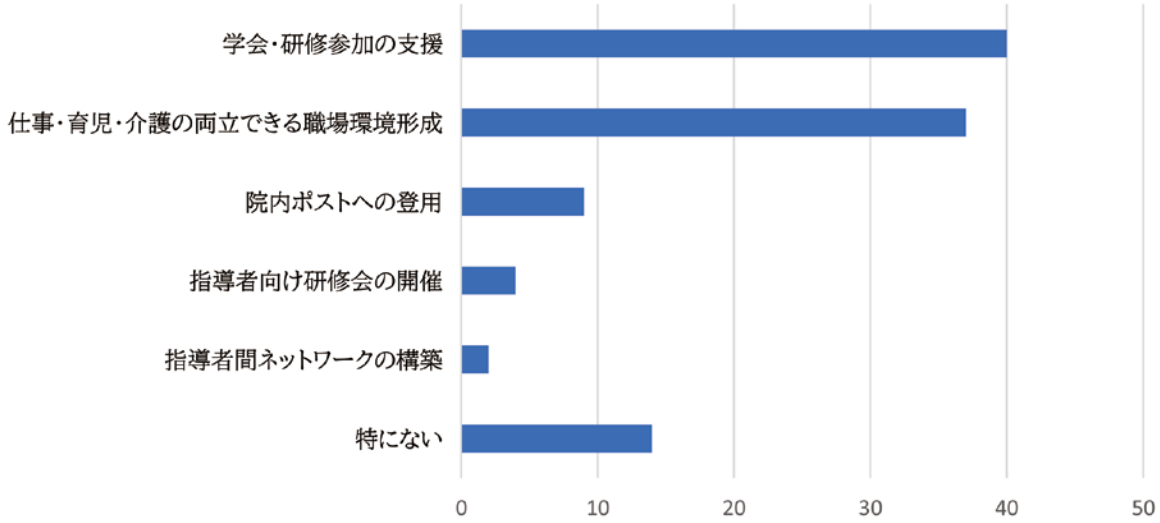
＊地域の医師数に比例して女性はもちろん、男性医師の育休取得も多くなってきましたが、医療機関によって取りやすい施設、取らない施設の偏りが見られました。
また出産の地域差もある為産休・育休取得者が全くいない地域もありました。

◆復職者数（）表示は同年度の育休取得者数

区分	男性医師	女性医師	合計数
復職数	10(83.3%)	29(55%)	39

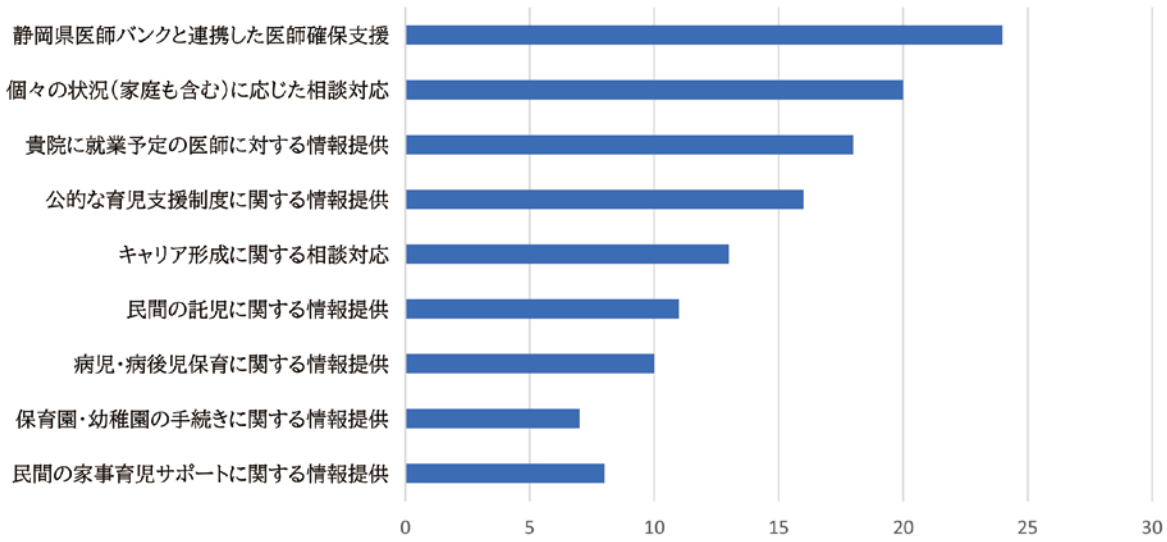
＊昨年より男性医師の育休取得が増加し、県内各地域で取得されるようになってきています。
昨年に比較し女性と男性の復職率が同程度となっているのは男性の育休取得期間が長期となっている可能性も考えられます。

Q4　女性医師のキャリア維持、指導者や管理職として育成していくために貴院で取り組まれている事に✓を付けてください。



＊回答していただいた６割近くの医療機関でキャリア形成のための学会・研究会参加支援、家庭との両立支援の取り組みがみられます。この２つの支援制度は女性医師や若手医師が現在、在職していない医療機関を除く県内の医療機関では一般化されてきているように感じます。
女性医師もいずれ指導者や管理者としての役割が期待されるようになります。学会の指導医研修は個々に対応されているかと思いますが、病院管理における管理者への育成についてはまだ一般的ではないようです。

Q5　ふじのくに女性医師支援センターに希望する支援に✓を付けてください。



＊昨年度から当センターは県医師会の医師バンクと連携した就業支援を行うようになったため、選択肢を追加したところ約３割の医療機関で医師確保支援に期待をされていることがわかりました。また昨年同様、個々の施設で対応が難しい女性医師への相談対応や育児支援などの情報提供についても期待されていると感じています。これらの両立支援にかかわる情報提供をさらに充実させ、より情報が受け取りやすい連携を行っていく必要があると思います。

令和５年度は過去２年に引き続き、静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することを目的に静岡県病院協会のご協力の元、県内医療機関に向けてアンケート調査を行い、68 施設 (回答率 40.0%) からご回答をいただきました。1 年間に県外から入職した女性医師は 113 人 (研修医を含まない)、地域別では東部に多い傾向が見られ、連携している大学の移動、県外から医師が集まる医療機関の影響がある為と考えられます。

産前産後休暇は実数こそ少なくなりましたが、常勤女性医師の 5.8％が産休を、7.7% が育児休暇を取得しており、産休取得者はほとんどが育休まで取得できている者と考えます。

男性育児休暇取得者は年を追うごとに増加し令和４年度は 17 名が取得しています。育休取得に関してはどのくらいの期間取得されているのか、また男性に育児休暇を取得させる取り組みや工夫など各医療機関で行われているものについて次回以降調査をしていきたいと考えています。産休・育休取得者の地域差は大きく、東部で特に減少している事が明らかになりましたが、女性医師の流入は東部に多く見られるためこれからも県全域にわたって仕事と家庭の両立、キャリア形成支援を引き続き行う必要があると考えられました、

医療機関における女性医師のキャリア支援については家庭との両立の支援、キャリア支援が６割程度なされていますが、上位管理者に向けてのサポートはまだ少ないようです。

来年度はさらに県内医療機関に対して連携をしていただけるような活動を充実させ、現場の女性医師がアクセスしやすい情報提供を目指す必要があると感じました。

アンケートにご協力いだきました医療機関の皆様、病院協会の皆様にはご協力に感謝申し上げます。

アンケート回答施設一覧

静岡県内 68 施設の医療機関に回答頂きました。ご協力頂きありがとうございました。
※施設名は回答時の表記で掲載しています。

◆加茂保健所

下田メディカルセンター	公益社団法人地域医療振興協会 伊豆今井浜病院
医療法人社団辰五会ふれあい南伊豆ホスピタル	

◆熱海保健所

伊東市民病院	国際医療福祉大学熱海病院

◆東部保健所

独立行政法人地域医療機能推進機構三島総合病院	静岡県立静岡がんセンター
裾野赤十字病院	伊豆赤十字病院
JA 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院	公益財団法人復康会沼津中央病院
ふれあい沼津ホスピタル	医療法人社団静岡健生会三島共立病院
医療法人社団慈広会記念病院	医療法人新光会伊豆平和病院
順天堂大学医学部附属静岡病院	

◆御殿場保健所

国立駿河療養所	公益社団法人有隣厚生会富士小山病院
医療法人社団青虎会フジ虎ノ門整形外科病院	

◆富士保健所

富士市立中央病院	公益財団法人復康会鷹岡病院
一般財団法人恵愛会聖隷富士病院	南富士病院
芦川病院	医療法人財団新六会大富士病院
医療法人社団秀峰会川村病院	富士整形外科病院

◆静岡保健所

静岡県立こころの医療センター	静岡県立総合病院
静岡市立清水病院	静岡済生会総合病院
医療法人社団清明会 静岡富沢病院	医療法人社団清明会静岡リハビリテーション病院
静清リハビリテーション病院	静岡徳洲会病院
医療法人清仁会日本平病院	

◆中部保健所

島田市総合医療センター	焼津市立総合病院
藤枝市立総合病院	榛原総合病院
医療法人社団平成会藤枝平成記念病院	医療法人社団八洲会はいなん吉田病院

◆西部保健所

磐田市立総合病院	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
袋井市立聖隷袋井市民病院	市立御前崎総合病院
菊川市立総合病院	市立湖西病院
公立森町病院	医療法人弘遠会すずかけヘルスケアホスピタル

◆浜松保健所

独立行政法人労働者健康福祉機構浜松労災病院	浜松医科大学医学部附属病院
独立行政法人国立病院機構天竜病院	浜松医療センター
浜松市リハビリテーション病院	浜松市国民健康保険佐久間病院
引佐赤十字病院	浜松赤十字病院
佐鳴湖病院	医療法人社団一穂会西山病院
医療法人社団綾和会浜松南病院	医療法人社団種光会朝山病院
医療法人社団三誠会北斗わかば病院	医療法人社団誠心会浜北さくら台病院
医療法人社団竹内会精神科・神経科浜北病院	遠江病院
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院

2）活動報告

①啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会を開催しました。

◀学生・研修医・医師交流会　はまキャリ 2023▶

会　　期	令和５年７月 20 日（金）
開催方法	オンライン
参 加 者	学生 10 名、医師 14 名



【概要】

2020 年からコロナ禍で集まることが叶わず、オンライン開催となっていましたが、4 年ぶりに対面開催となりました。

臨床実習中の５年生、自分の進む科を考え始めた４年生､医学的な授業はまだだけど色々聞きたいと思った２年生、男子医学生も参加してくれました。

医師の皆さんも内科、外科、小児科、放射線科、眼科、産婦人科と様々な診療科から集まって頂きました。

最初こそ緊張していた学生の皆さんも、時間がたつにつれ「専門を決めた決め手は？」「結婚するタイミングは？」など日頃聞けない質問を投げかけ、各テーブルで会話が弾み、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

途中で席替えをして学生の皆さんが多くの先生の話が聞けるようにしましたが、低学年のうちから自分のキャリアやライフイベントを意識するようになっている今の学生の皆さんが医師になるまでに様々な考え方、生き方に触れて自身の進路を考えていただくきっかけになればと思う時間となりました。

また、今回は日本医師会女性医師支援センターに開催支援を頂きました。

ありがとうございました。





◀ロールモデル講演会▶

会　　期	令和５年10月13日（金）
開催方法	ハイブリッド
参 加 者	オンライン　　53名 会場　　33名



【概要】

今回のロールモデル講演会は昨年に引き続き、色々な家庭の両立のお話を聞いてみようと配偶者も医師である３名の先生、それぞれの仕事と家庭のバランスを伺いました。

杉原守先生は実家が遠く出産後は二人で育児を、と言う事から所属する外科で初めての男性育休を２週間取得した経験をお話していただきました。育休を取得して、お子さんのお世話が一人で出来るようになり、これからの生活についても奥さんとじっくり話をすることができたそうです。出産後に利用したサービスも育休を取得して初めて気づけたと。育休を取るために協力してくれた外科医局も医師の両立を考えて体制を整えているそうです。

加藤由希子先生は３人の子育てと仕事の両立をしっかりされている先生です。

医師免許を取った年に結婚し、小児科専門医、サブスペの専門医、そして学位も自分のペースで積み上げてきました。ご本人は「ゆるふわ女医」って謙遜されているけれど、非常勤という立場で、自分のやりたいことコツコツと続けて目標を達成しています。「二兎追う」という言葉は仕事と家庭、どちらかがおまけではなく、本当の両立という意識を持っていらっしゃると感じます。日々続けられるのは周囲の協力があってこそ、と感謝の気持ちの大切さも教えてくださいました。

三人目は辻孝之先生、「結論：特別なことは何もありません」というタイトルを見てドキッとする方もいるかもしれません。ご夫婦で腎臓内科医、奥様の海外留学について行って、アメリカで子育てに関わる色々を考えたり学んだりしたそうです。父親とか母親という括りでやる事を分けるのではなく、やれるときにやれる方がやる。一緒にキャリアを継続するためにお互いの事を考えて過ごしていく。アンコンシャスバイアスにとらわれていると、「特別な事ではない」事を男性がやっていると「すごい！」になってしまう。そのことに気づけた講演でした。これから若い先生達にも根付いていって欲しいです。



◀キャリア支援シンポジウム～働き方改革を前に考える～▶

会　　期	令和６年１月26日（金）
開催方法	ハイブリッド
参 加 者	オンライン　　31名 会場　　12名



【概要】

女性がキャリアを積んで管理職や指導者になっていく事は本人も、周囲も荷が勝ちすぎると思い、一歩を踏み出すことが難しいと考えがち。そんな女性医師の意識に風穴があければ、と本年のキャリア支援シンポジウムでは浜松医大を卒業され、2022年４月にNTT東日本関東病院で副院長となられた渋谷祐子先生にご講演をいただきました。渋谷先生は同病院では女性医師初の副院長。日頃若い医師を指導しながら感じる地域医療の在り方や総合内科的能力の重要性とスペシャリティを求める若手医師への指導の在り方など問題点を挙げてい頂きました。静岡県の若い医師がそのまま地域に定着して指導者として育つために必要とされることは何だろう？というサブテーマにもこたえて頂き、若い医師が求める研修と地域の問題を示して指導医としてどのように考え実行されているか、そして副院長に就任されたご自身の軌跡をお話していただきました。

シンポジウムでは実際に県内医師少数区域で研修を積んでいる鈴木綾子先生、曽根田光先生にご登壇いただき、結婚や出産を経て変わった家庭と仕事の両立の在り方と自身のキャリア形成の考え、これからの課題と展望をお話していただきそれぞれ意見交換をしました。どうしたら今より良くなるのかをそれぞれが意識し、解決しようと考え、実行する気持ちが大切だと改めて感じた講演でした。





◀学生講義▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は３回講義を行いました。

日　程	令和５年５月19日（金）
対　象	医学生２年生　101名
講　師	谷口 千津子 「医学生のためのキャリア形成入門」
日　程	令和５年６月23日（火）
対　象	医学生６年生　115名
講　師	谷口 千津子 「ライフイベントをプラスに変える！～働く側・支える側　それぞれのメリット」
日　程	令和５年11月15日（水）
対　象	医学生４年生　97名
講　師	安田 日出夫（女性医師支援センター　副センター長） 「女性医師支援」の本質は何か」 藤澤 泰子（女性医師支援センター　運営委員） 「女性医師支援～ダイバーシティーの視点から」

【アンケートより】

・SNSでもよく、女は１回は医者を辞めることを考えるというのを見るが、子育て等を考えると確かになと思っていた。男は生涯仕事をするものという根本的な考え方があったので、辞めることはないと思っていたが、そういった女性の立場も考えることが理解を深めることに大事なのだなと感じた。

・グループディスカッションをして、男女において、仕事と家庭のどちらに重きをおいているのか、またキャリアに関してどのように考えているかの違いがあると感じました。女性は出産のこともあり家庭について考える一方で男性は深く考えていなく、これは実際の人でもよく起こっていると思い、これらの価値観の違いをすり合わせていかないといけないと感じました。また男女問わず、自分のキャリアをしっかり考えることが大事だと思いました。

・初期研修を終えて、後期研修を経て専門医をとって、ずっと臨床に携わっていくんだろうなあといった、漠然としたイメージしか持っていなかったが、もっと夢や野望を持って幅広く活躍することもできると思うと、選択が広まる気がした。とはいえ、やはり女性医師にとってキャリアと子育てを両立させていくのが難しい現状には辛いものがある。



②相談窓口の設置

出産･育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター２名（専任医師１名、専従事務員１名）
開設時間	平日９時から 17 時まで

③センターの活用

センターでは畳スペース・ソファースペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。







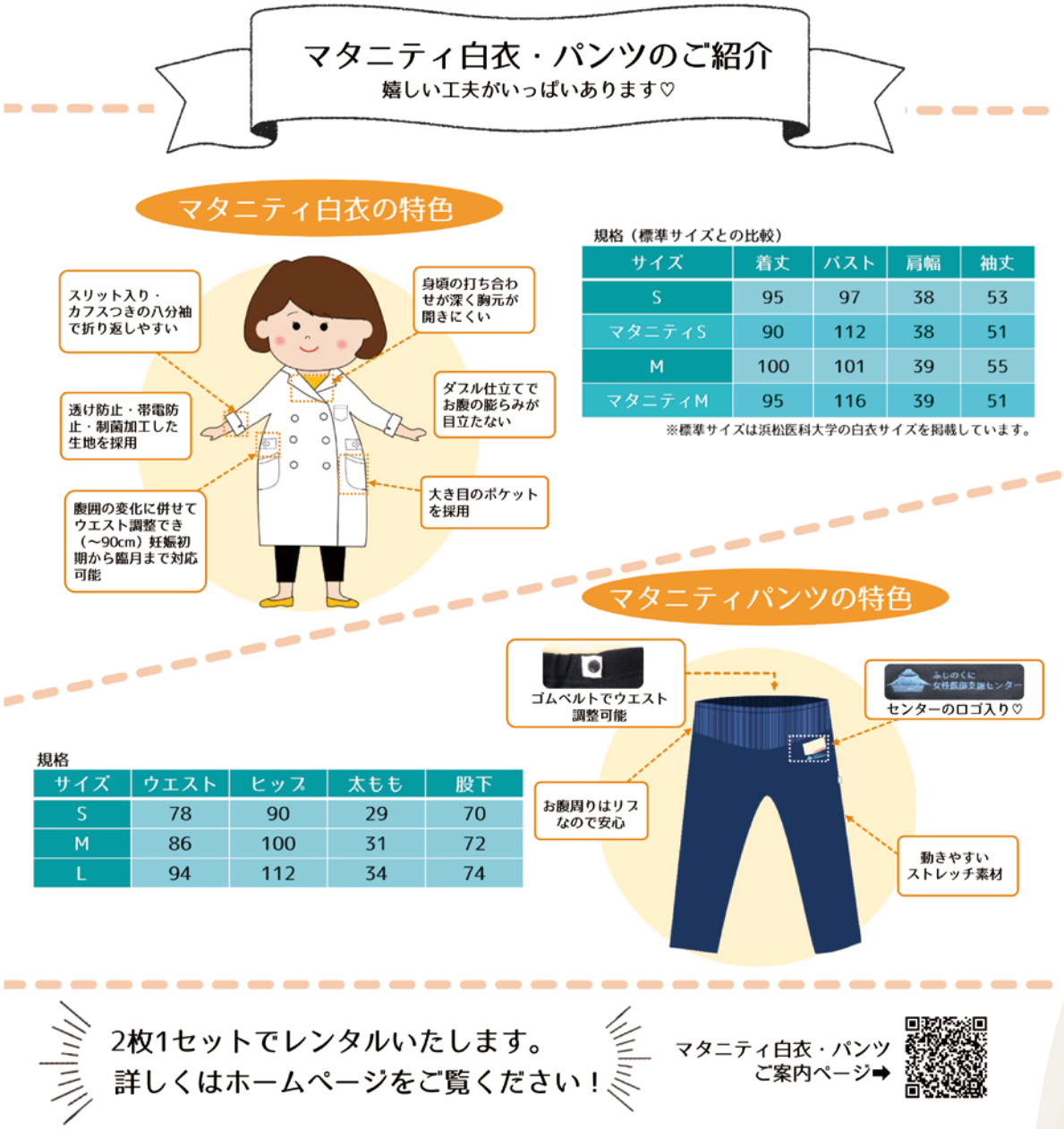


④マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学医師トータルサポートセンターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学
医　師	４名



広報活動・情報発信

①ホームページについて

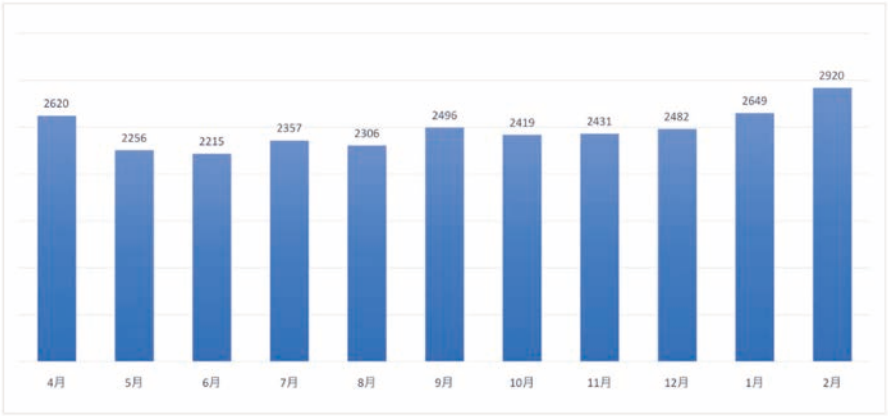
静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成 30 年 2 月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。



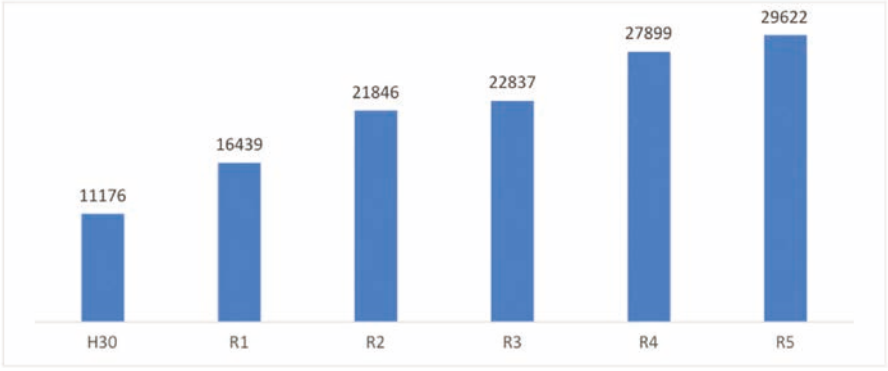
ふじのくに女性医師支援センターホームページ
https://www.fujinokuni-w.jp/

サイト分析結果

令和 5 年度月別



平成 30 年度から令和 5 年度年別



※アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30 分以内の同一 IP を除いた訪問者数をカウントしています。

令和５年度取り組み

◇新規コンテンツ「キャリアインタビュー」

女性医師はキャリア形成やその維持について、また育児や子供の教育にかかわる母親として仕事と家庭のありかたを日々悩み、選択を迫られています。医師に限らず女性が仕事と家庭を両立するためには人的支援や金銭的支援だけでなく、キャリアを積もうとする本人の意識と、周囲の意識の在り方が重要です。病院だけでなく一般企業や公的機関において管理者、責任者として自身のキャリアを継続している方たちにお話を伺い、キャリアへの意識・家庭・職場での取り組みなどをまとめました。





◇ SNS での情報発信を強化

ホームページでご紹介しているコンテンツのご案内やイベント情報等を発信しています。

【Facebook】

ホームページでご紹介しているコンテンツのご案内やイベント情報等を発信しています。

フォロワー 145 人



【Instagram】

フォロワー 251 人



②パンフレット配布

広く周知をするため、パンフレットを作成し県内医療施設と浜松医科大学各診療科及び卒業式・入学式、各イベントにて配布しています。









③周知カードの配布

様々な方にセンターの存在を知って頂き、すぐに相談が出来るよう周知カードを作成しました。

（表）



（裏）



※ポケット付きチラシにて配布



④講演会・シンポジウム等の参加

令和５年 11 月 12 日
令和５年度　第 124 回日本呼吸器学会東海地方会
　男女共同参画講演
　【講演】「静岡県の医師の両立支援と今後の課題」
現地（浜北文化会館）

令和５年 11 月 19 日
女性医師支援・ドクターバンク連携中部ブロック会議
　議題「女性医師支援事業の現状と課題」「ドクターバンク事業の現状と課題」
現地開催（静岡市）

令和６年３月 12 日
令和５年度第２回全国ダイバーシティネットワーク組織　東海・北陸ブロック会議
WEB 開催

⑤メディア掲載

中日新聞　朝刊　令和５年 12 月 22 日
浜松市民「ＦＭＨａｒｏ！＃えんしゅう」



中日新聞　2023年(令和5年)12月22日(金曜日)　(18)

浜松市民

#えんしゅう
FM Haro! 76.1MHz

“二刀流”支えます

かなえた夢 出産後も諦めないで

女性医師支援センター 谷口千津子さん

子どもを包み育てたい、でも仕事もしたい―。共働き世帯が増える中、育児と仕事の両立に頭を悩ませる女性は多い。同じ立場の私も両輪を走らせたいが、結局は育児中心の自分にモヤモヤ。浜松市に子育てする女性医師のキャリアを支える人がいる。産婦人科医で「ふじのくに女性医師支援センター」(同市)のコーディネーター谷口千津子さん(56)だ。２人の娘を育てた谷口さんから助言をもらった。(高島智)

「育児と仕事の両立はどうとでもなる」と話す谷口千津子さん＝浜松市東区の浜松医科大で

谷口さんは、出産後に再就職する女性医師と医療機関のつなぐ役、勤務形態の相談にも応じ、病院外の喫茶店で会議用アプリ「ズーム」で話し合う。支援の根っこに「大学に６年も通ってかなえた医師の夢を、簡単に諦めてほしくない」という思いがある。「思い込みを取っ払って、できることがあるよ」と、希望の光をともせるように心がけています」と語る。

多くの女性医師に共通するのが、仕事が限られた時間に子育てに重きを置く傾向だ。「上司が優しく仕事を奪うから、やりがいを感じにくくなっている。もっと職場の人は『育て中の母親を信じていい』『任されれば人は必ずどうにかする。谷口さんは自身の経験からそう感じている。33歳で長女を、36歳で次女を出産した。長女を出産した時は、生後10カ月で職場に戻った。週３回の夜間勤務にも入った。保育園の他にベビーシッターと、自治体のファミリーサポートなど使えるサービスを活用。次女を出産した時は、伊豆市に住む母親に助けてもらうため、近くのアパートを借りてほんの１カ月だけ一緒に暮らしてもらった。

大切にしたのは「仕事ができない訳を子育てのせいにしない」ということだ。母親は当直免除の風潮があるが、夜勤は夫に子どもを任せ、仕事に専念できる貴重な時間だと考える。「できない仕事は持ち帰ればいい。やりようはいくらでもある」

自分を律してきた谷口さんだが、「子育ては『要領良くがポイント』と話す。「必ず娘とお風呂に入って対話の時間をつくる。料理は平日は出来合いでも、土日は本格的なビーフシチューを作った。「100％完璧はできない。でも、娘とも夫とも対話は絶対に避けないようにしてきました」

2010年から浜松医科大の研究職に就き、現在のコーディネーターに誘われた。細く長く仕事をしたからこそ、やりがいのある役割を手に入れた。制限のある中でも、一つの分野を突き詰めると広がる世界がある。「とにかく続けることが大切です」

ふじのくに女性医師支援センター　県が2017年に浜松医科大に設置。出産で離職した女性医師の就業相談やキャリア形成支援のほかに、医師を目指す学生に向けた働き方の教育もする。22年度の相談数は45人の計160回で勤務形態や仕事の内容といった就業相談が多かった。センターは県内で深刻な医師不足を解消する目的もある。

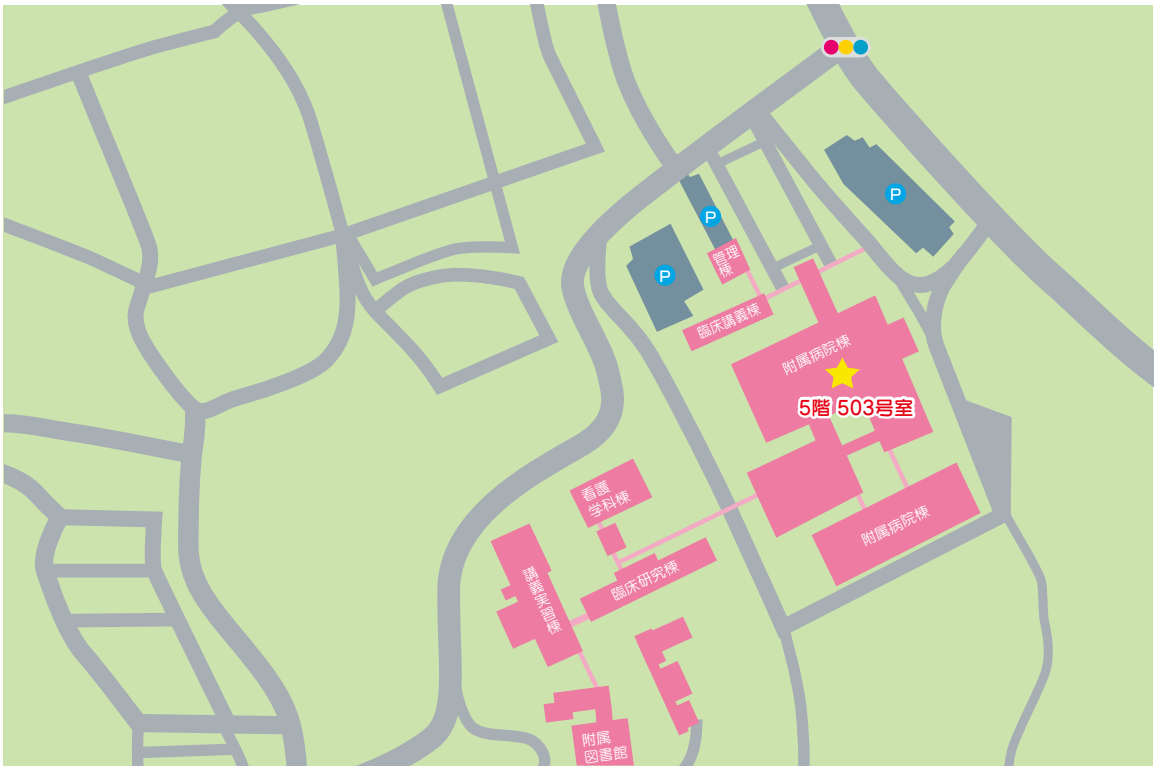
高島記者のひとこと

谷口さんは出産を経験し、産婦人科医として妊婦との会話をより大切にするようになったそうです。仕事と子育ては相反するものではなく、相互に高めていけるはずです。わが子が一歩ずつ成長するように、目の前のことを一つずつこなして進んでいきたいです。

浜松エフエム放送が受信できない地域の方も、同社ホームページ内の「ＪＣＢＡ」のバナーから生放送でお聴きいただけます。

34

アクセス・発行について



令和５年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書
発行　印刷日　３月 22 日
発　行　３月 29 日
発行所　ふじのくに女性医師支援センター
〒 431-3192　静岡県浜松市中央区半田山 1-20-1
浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター内
電話 /FAX　053-435-2380
E-mail　dr-info@hama-med.ac.jp
URL　https://www.fujinokuni-w.jp/
編集　センター長　山内克哉
コーディネーター（医師）谷口千津子
コーディネーター（事務）袴田菜穂子